

第4章 環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法 4.4 調査、予測及び評価の手法  
【隣接する物流拠点、IR 開発を含む複合影響を検証、評価することを求めます】

博覧会の環境アセスメント実施に当たっては、物流拠点からの大気汚染や交通アクセス、IR カジノ施設の建設に伴う様々な工事やそれに伴う交通量の増大、また開催時における旅客の増大に伴う環境の変化など、複合影響を加味した環境評価項目の検討と、審査をすべきです。

博覧会予定地と隣接する夢洲4区は、現在、国際コンテナ戦略港湾の中核拠点です。平日はコンテナトラックで渋滞しており、現在でも船舶とトラック両方の排気ガスによる大気汚染が深刻な状況となっています。

また大阪市では、「カジノを含むIR施設」とのセット開催が目論まれています。

大阪市の夢洲まちづくり基本方針（案）によれば、IR 施設の整備は2020年度後半開始とされており、博覧会の会場建設時は、IR 施設の建設、交通の橋や道路の建設や高速鉄道の架設、上下水道の整備など様々な工事が同時に進められると予想されます。